

標準液作成の自動化による コスト削減効果



コストの比較: 手作業による標準の調整と自動化ソリューション



標準液の作成とサンプルの希釈に関して、手作業に代わる方法をお探でしたら、こちらのシンプルなコストカリキュレータをご利用ください。手作業での検量線作成によって生じる年間の実際のコストを計算できます。正確な値が不明な項目については、妥当な見積値を入力します。

パラメータ		ここに値を入力
A	スタッフの作業 1 時間あたりのコストは、通常どのくらいですか？	» <input type="text"/> 円 / 時間
B	環境分析メソッドの ICP-OES 標準液、QC 標準、干渉チェック用溶液一式の作成にどれくらい時間がかかりますか？	» <input type="text"/> 時間
C	毎月、異なる環境分析ごとに標準液を何セット作成しますか？	» <input type="text"/>
D	標準液作成の毎月のコスト:	円
	$A \times B \times C$	
E	原液または市販の標準液のコストは毎月どのくらいですか？	» <input type="text"/> 円
F	標準液作成に使用する消耗品 (例: ピペットチップ) のコストは毎月どのくらいですか？	» <input type="text"/> 円
G	酸やその他の試薬にかかるコストは毎月どのくらいですか？	» <input type="text"/> 円
H	検量線作成用の消耗品の毎月コスト	円
	$E + F + G$	
I	不正確な標準液が原因で、毎月どのくらい検量線作成誤差が発生していますか？	» <input type="text"/> 回 / 月
J	再検量線作成後に再分析する必要があるサンプルの数はどのくらいですか？	» <input type="text"/> サンプル
K	1 サンプルあたりのコストはどのくらいですか？	» <input type="text"/> 円 / サンプル
L	検量線作成誤差にかかる毎月のコスト:	円
	$(A \times B) \times I + (J \times K) \times I$	
M	毎月の検量線作成の総コスト	円
	$D + H + L$	
N	手作業での検量線作成によって発生する年間の総コスト	円
	$12 \times M$	

手作業での検量線作成の年間コストが、自動希釈装置の価格の半分以上である場合は、装置の購入をおすすめします。

2 年以内にコストを回収でき、生産性の向上とエラーの削減も実現します。

また、市販の調製済み多元素標準液には、単元素標準液を使用する場合よりコスト効率が高いものもあります。

汚染された標準液や不適切な標準液が原因で何度も再分析が発生している場合は、特に有用です。

[詳細はこちら](#)

Agilent 5110 ICP-OES:

www.agilent.com/chem/5110icpoes

ICP-OES 用消耗品:

www.agilent.com/chem/jp

ホームページ

www.agilent.com/chem/jp

カスタムコンタクトセンタ

0120-477-111

email_japan@agilent.com

本製品は一般的な実験用途での使用を想定しており、
医薬品医療機器等法に基づく登録を行っておりません。
本文書に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに
変更されることがあります。

アジレント・テクノロジー株式会社

© Agilent Technologies, Inc. 2019

Printed in Japan, January 18, 2019

5994-0670JAJP